

チリーフラミンゴ
(3羽)

生まれたときは
ピンクじゃない?!

フラミンゴ
ミルクって??

今回なんと
9年ぶりのふ化
3羽すくすく!

現在成育中のヒナ 3羽

ふ化日
2016.11.17
2016.11.20
2016.12.4



鮮やかなピンク色は、食べ物(水中のプランクトン)により、発色しています。ヒナのうちは、母親だけでなく父親からも、その食道の一部の素囊(そのう)から分泌される真っ赤なフラミンゴミルクを口移ししてもらいます。

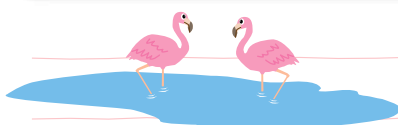


子育てしていた両親は、すっかり色あせました。ヒナの方はどれかわからないくらい立派に成長しました。綺麗な色になるのが楽しみです。

こんな動物

フラミンゴ目フラミンゴ科
分布:南アメリカ
主食:プランクトン

フラミンゴは何色のイメージですか。きっと答が「ピンク」と返ってくるでしょう。でも実は、生まれてすぐは白色から灰色をしています。



どうぶつ館
レッサーパンダ



ふわふわの赤い毛並としましま模様の長いしっぽ。タヌキ?アライグマ?いいえレッサーパンダ!可愛い~!とは言われるけど、実はちょっと間違いやすいレッサーパンダの「しっぽ」に注目してみよう!



レッサーパンダのしっぽは体と同じくらいとても長い。このしっぽのおかげで高い木の上もバランスをとってスイスイのぼるよ。野生のレッサーパンダがすんでいるのは一年中寒い場所。寝るときはふわふわのしっぽをマフラーにして、顔をすっぽり隠してしまうととても温かいんだ!



そっくりさんのアライグマとタヌキ、しっぽをよく見てみるとどちらも短いね。動物公園で3種類の違いを見比べてみてね!



ず〜 Zooっと平川



特集1

キリンの子ども
成長記録

特集2

シリーズ かごしまの動物園
100年の歴史を振り返る



キリンの子どもの成長記録

Hayato & Ayame

今回は、平川動物公園で7年ぶりに生まれた、キリンの子どもを紹介します。父親はハート、母親はアヤメ。そして子供は「ハヤテ(疾風)」と名付けられました。これは「スクスクと元気に育って、アフリカ園を駆け回ってもらいたい」と願いを込めた名前です。

1 平成28年9月8日、快晴。来園者も動物たちも穏やかな一日を過ごしていました。そんな中午後1時45分頃、アフリカ園の一角で異変が起きました。アヤメを呼んでも来ない。「どうした？」そんな思いで近づくとも目を疑いました。出産です。



穏やかな一日でした



!!

2 アフリカ園では他の動物たちも一緒に過ごしており、また、足場も悪く滑りやすいので、アヤメも心配そうな表情で見守っていました。



アヤメも飼育員も心配...



励ましているのかな？



ようまく 羊膜をなめとります



しっかり拭いてあげます

3 このままではケガをすることも予想されたため、スタッフ全員で準備を整え、ハヤテを寝室に移動させ、体をしっかり拭いてあげました。生まれたときの全高(頭までの高さ)は170cm以上、体重は約80kgです。



フカフカの藁の上でやっと落ち着きました



寝室で再会

4

自力で必死に立ちとうとするハヤテをしっかりと肢や体を使ってサポートするアヤメ。産後1時間30分でハヤテはようやく立ち上がり、そしてミルクを飲みました！



自立をサポートするアヤメ



初めての授乳



ハヤテの頑張りを労う様子

5

ミルクを飲む時間が非常に短く、座っていることが多かったので心配でしたが、それが赤ちゃんの自然な姿だということもわかりました。一時もアヤメのそばを離れることなく、食べ物など色々なものに興味を示しました。



いつもアヤメと一緒に



眠る様子



親子で運動場へ



舌をペロリ



凛々しい表情もするように

6

順調に大きくなったハヤテは、最近、様々な表情で来園者を楽しませてくれます。

飼育員からひとこと

アヤメの愛情をたっぷりもらって育ったハヤテは、全高320cm、体重350kg程まで成長し、たくましくなっています。アヤメから学んできたことを、ハヤテが大人になったとき、立派なキリンとして受け継いでくれることを信じています。みなさんも、温かく見守っててください。

担当者：田邊、若松

飼育員の一日



コツメカワウソ飼育員の巻

平川動物公園には元気いっぱいのコツメカワウソ一家がいます。彼らのお世話をする飼育員の一日を見てみましょう。

飼育担当者：海道夢紀、落合晋作
私たちが2人で担当しています。その他にはインドゾウ、ワタボウシパンシエ、フンボルトペンギンなどを担当しています。



ある日のスケジュール

- 8:15 朝の巡回と様子の観察
- 8:30 各動物の展示場点検、放飼、給餌、掃除
- 9:00 インドゾウのターゲットトレーニング、放飼
- 9:35 インドゾウ、コツメカワウソなど各獣舎の掃除
- 11:50 フンボルトペンギンとコツメカワウソの午後のエサの準備
- 12:00 昼休み
- 13:00 ミーティング
- 13:30 各動物のエサの準備、給餌
- 15:00 フンボルトペンギンのお食事タイム(時々カワウソのおやつタイム)
- 15:30 看板製作など臨時作業
- 16:00 コツメカワウソ、インドゾウなどを寝室へ収容し、給餌、展示場の掃除各獣舎の施錠
- 17:00 日誌の記入、業務終了

1

8:15～朝の巡回と観察

各獣舎へ午前中のエサを置きながら、動物の様子を観察します。昨日の食べ残しはないか、元気はあるかなどをチェックしていきます。



準備完了!▶



2

8:30～展示場の点検

夜間にゴミが落ちてないか確認。手先が器用なカワウソたちは、隙間に落ちた小さな釘などもおもちになってしまうのでしっかり探します。ゴミがないことを確認したら、おやつ代わりのエサをまき、放飼準備完了です。

3

8:40～放飼

日によって外に出ることを待っていたり、いつまでも寝箱の中でうとうととしていたりするので、すぐに出ていかないことも…。



▲いってらっしゃ〜い!

6

9:35～ゾウ舎の掃除

大きなゾウはうんちも大きい! スコップを使って掃除していきます。



▲一日のうんちの量は、実に60～120キロ!

4

8:50～様子の観察

今日の動きにおかしなところはないか確認します。



▲今日も異常なし!

5

9:00～インドゾウのターゲットトレーニング、放飼

怪我などいざという時に備えて、体の各所を見たり触ったりできるようにトレーニングを行います。2頭のゾウのトレーニングが終わってから、展示場に放飼します。



▲動物とのコミュニケーションが大切です

7

10:00～カワウソ舎の掃除

かわいい見た目に似合わず!? 寝室内は強烈な刺激臭がします。体を擦り付けるのに使うタオルなども洗います。



◀夜に備えてしっかり掃除

8

10:15～アカカンガルーなど、他獣舎の掃除

9

11:50~コツメカワウソ、
フンボルトペンギンの
午後のエサの準備

泳ぐ動物たちは小柄でもたくさん食べてエ
ネルギーを補充します。魚が大好き!アジや
キビナゴを丸ごと与えます。



カラフトシヤモをあげることも▶

10

12:00~昼休み

11

13:00~ミーティング

13:30~ワタボウシパンシェ、シマリス、
ルリカケスなどのエサの準備

それぞれの食性に合わせ、時には野草や枝葉を取りに
行ったりしてバランスよく与えます。

12



▲バランスよく食べてね!

13

15:00~フンボルトペンギン
のお食事タイム

毎日行イベントです。普段はのんびり過
しているフンボルトペンギンたちの生き生き
とした姿、解説付きでご覧あれ!コツメカワ
ウソのおやつタイムは、不定期で行って
います。



▲毎日15時から
行っています!



14

15:30~大工仕事!?

エンリッチメントのための道具
作りや、インドゾウのエサにする
樹木採集など、力仕事がたくさん
あります。



魚を骨ごとバリバリ▶

15

16:00~インドゾウ、コツメカワウソなど
動物の収容と展示場の掃除

今日もお疲れさま!たくさんご飯を食べて、明日も元気に過
ごそうね。



▲ゆっくり休んでね~



16

17:00~日誌記入

その日の出来事や展示舎の気温な
どを記入します。
必要に応じて獣医師に報告と相談
をします。

17

退社

お風呂の中で考えるのは
動物の事ばかり。今日もみ
んなよく眠れているかな?
お疲れさまでした!

コツメカワウソの豆知識

「水から上がるとクネクネダンス!」

コツメカワウソは水から上がると木や石の上で横たわり、体をクネク
ネさせています。

これは、体を物に擦り付けることで、濡れた体を拭いているのです。カ
ワウソの毛は、外側を覆っている水をはじく役割の長い毛と、内側に
ぎゅっと密集して生え、体温を保つ役割の短い毛の2層構造になっ
ています。この毛皮のおかげで毛の中に空気の層ができ、水に入っても皮
膚が直接濡れることはありません。水から上がった後はクネクネダンス
で体を拭き、日向ぼっこしてふかふかの毛皮に戻ります。

日本では過去に、その暖かい毛皮を狙った狩りにより、ニホンカワウソという動物が姿を消しました。ニホンカワ
ウソは日本全土に広く生息していましたが、徐々に数を減らし1979年高知県での目撃を最後に情報が途絶え、2012
年に環境省より絶滅動物として指定されました。鹿児島県では1964年に川内川で目撃された個体が最後です。絶滅
の原因として他にも、河川の水質汚染により生息地が狭まったことなど、私たち人間の生活が深く関わっていると
考えられます。コツメカワウソも密猟や環境破壊により数を減らし、絶滅の恐れのある動物を記載するレッドリス
トに登録されています。動物園でコツメカワウソをご覧になった時、絶滅したニホンカワウソを思い出して、動物た
ちが絶滅しないためにどうすればよいか、少しでも考えていただくきっかけとなればと思います。
(追記:2017年8月に対馬でカワウソと思われる動物の姿が確認されましたがニホンカワウソではないようです。)



飼育員からひとこと

コツメカワウソは愛らしい姿やしぐさが人気の動物ですが、エサである魚や小動
物を消化するために胃酸が強く、糞は強烈なおいがします。また、好奇心旺盛で、
アジの骨をもかみ砕く強いあごと、隙間から物を引きずり出すことのできる器用
な指先の持ち主で、新しい遊び道具を入れてもあっという間にボロボロにしてし
まう、飼育員泣かせの動物でもあります。

コツメカワウソの様々なしぐさを観察し、かわいいだけではない意外な一面を
発見して「おもしろい!」とさせていただけると嬉しいです。



担当者:海道、落合(晋)



平成19年(2007年)
3月 平川動物公園再整備基本計画を策定
10月 開園以来の入園者数2,000万人を突破



平成20年(2008年)
3月 平川動物公園再整備基本計画を策定。
6月 コアラのメス(ヒカリ)が誕生。
初の7世コアラ

平成21年(2009年)
4月 リニューアル第一期工事(アフリカの草原ゾーン、世界のクマゾーン他)実施設計
5月 リニューアル第一期工事(アフリカの草原ゾーン、世界のクマゾーン他)着工
12月 開園以来の入園者数2,100万人を突破



平成22年(2010年)
3月17日 カバのオス(リョウマ)長崎バイオパークよりプリーディングローンで借受
3月23日 コアラのオス(ウルル)名古屋市東山動植物園より動物交換で搬入
3月 アフリカの草原ゾーンなどリニューアルオープン
3月 リニューアル第二期工事(野生のイヌ・ネコゾーン、インドの森ゾーン他)実施設計
3月 リニューアル第二期工事(野生のイヌ・ネコゾーン、インドの森ゾーン他)着工
11月11日 カバのメス(ナナミ)神戸市立王子動物園より受贈



平成23年(2011年)
1月 アフリカ園前の足湯完成
2月7日 レッサーパンダのメス(風美)千葉市動物公園よりプリーディングローンで借受
3月 世界のクマゾーン、食堂オープンテラスなどリニューアルオープン
3月 リニューアル第三期工事(南アメリカの自然ゾーン他)実施設計
5月 リニューアル第三期工事(南アメリカの自然ゾーン他)実施設計。着工
5月19日 ホワイトタイガーのオス(タイガ)とメス(コハク)株式会社新日本科学より受贈
7月14日 レッサーパンダが初めて繁殖
9月 開園以来入園者2,200万人突破
11月 インドの森ゾーンリニューアルオープン
11月18日 ホワイトタイガーの子ども4頭が誕生(うち2頭は死亡)。ガクとココキと命名
11月29日 マサイキリンのオス(ハート)動物交換により搬入



平成24年(2012年)
2月 ホワイトタイガーの子どもオス(ガク)とメス(ココキ)を一般公開
3月 リニューアル第四期工事(不思議な動物ゾーン、かごしまの動物ゾーン他)実施設計
3月 シカ展示場など一部リニューアルオープン
4月 野生のイヌ・ネコゾーンリニューアルオープン
10月14日 平川動物公園開園40周年



平成25年(2013年)
5月24日 ホワイトタイガーの子ども3頭が誕生。リク、カイ、メイと命名
7月 不思議な動物ゾーン、かごしまの動物ゾーン、世界のサルゾーン(オランウータン舎)リニューアルオープン



○動物のコレクションプラン

～明確な目的のある動物飼育を～

平成25年(2013年)、公益社団法人日本動物園水族館協会(以下、JAZA)は、種の保存の関係から、会員となっている各動物園水族館は明確な理由を持って飼育プランを立てるようにと提案しました。平成10年頃までは、一部の動物を除けば必要な動物は概ね購入することができました。しかし、現在は、環

シリーズ かごしまの動物園100年の歴史を振り返る④ ～リニューアル、そしてこれからの平川動物公園～

○他園の協力を得てスタートしたリニューアル～カバが来園～

平川動物公園でカバを飼育してほしいという子どもたちの強い願いは何度となく聞いておりましたが、前身の鴨池動物園を含めてカバを飼育したことはありませんでした。今回のリニューアルを期に再整備基本計画策定検討委員会でもカバを導入することにまとめ、リニューアル工事初年度の平成21年度に工事が始まりました。

全国の動物園では約50頭のカバが飼育されていましたが、カバは大量の水を使い(水中で排便をすることからプールの水替えも頻繁に行う必要があります)、強固な寝室が必要であることなどから、どの動物園も余剰個体は飼育していませんでした。そこで、これまでカバの繁殖成績が良い神戸市立王子動物園と長崎バイオパークに、雌雄どちらでも引き取るという約束をして、繁殖に取り組んでもらえるようお願いしました。幸いにも両園は、早速繁殖に取り組んでくれました。王子動物園でメス(ナナミ)、長崎バイオパークでオス(リョウマ)が生まれ、生後約1年後の平成22年(2010年)に、新築したカバ舎に2頭を迎えることができました。繁殖を依頼してから2年、カバの来園は2園の協力があってこそ実現したのです。

2頭は大変な人気者となり、来園者に見守られながら今日も元気で過ごしています。



○思いがけないプレゼント～ホワイトタイガー来園～

平成22年(2010年)、鹿児島市出身で、株式会社新日本科学の社長 永田良一氏からホワイトタイガーのオスとメスの2頭を平川動物公園に寄贈し、郷里の鹿児島の子供達に見てもらいたいという思いがけないうれしい申し出があり、鹿児島市は喜んで受け入れることにしました。しかし、当初のリニューアル計画になかったため計画を変更し、ライオンを飼育する予定の動物舎をホワイトタイガー用とし、ライオン舎は別途追加で建設することにしました。

動物舎が完成した平成23年(2011年)5月に2頭のホワイトタイガーと1頭のベンガルトラが来園しました。2頭のホワイトタイガーは、タイガ(オス)とコハク(メス)と命名され、大変な人気者となりました。



○南国鹿児島らしい動物園～温泉の活用は職員の一言から現実～

今回のリニューアルは、1. 南国鹿児島らしい特色ある動物公園、2. 人にやさしい動物公園 3. 動物にやさしい動物公園 を目指し進めてきました。

鹿児島らしい特色ある動物公園を実現するために、桜島の眺望や五位野川の活用などが当初からあがっていましたが、その後リニューアルに携わる職員の中から、鹿児島の特徴である温泉を動物公園内に掘

り、それを動物のプールや来園者の足湯として利用してもらえれば、鹿児島らしさに加えて人にも動物にもやさしい施設となるのではとの意見が出されました。限られた厳しい予算の中で、園内に温泉を掘ることを決め、地下1,500mまで掘削し、源泉で38.7度の豊富なお湯を確保することができました。これらのお湯は、園内2か所の足湯、バクやカピバラ展示場のプール、ヤクシマザル展示場のプール、そしてカバ展示場の温泉シャワーとして利用しています。このように、他園の協力や職員のアイデアによってリニューアル計画は順調に進んでいったのです。



○指定管理者制度の導入～サービスの向上を目指して～

平川動物公園は開園以来、飼育業務と管理業務以外の業務を、現在の公益財団法人鹿児島市公園公社に委託してきました。平成24年度からは、指定管理者の導入を前提に飼育業務も当公社に委託されました。飼育業務については、これまで鹿児島市の職員が担当していたので、市の職員には派遣職員として協力をいただきながら、5年間をかけて飼育及び獣医業務に係る職員を全て公社職員に切り替えました。また、管理業務も平成28年度から公社に委託することになり、平川動物公園の全ての業務を鹿児島市から委託を受けて公社が行うという形で新たなスタートをきりました。

○リニューアル工事終了～ここから腕の試しどころ～

平成21年(2009年)に始まったリニューアル工事は、大きな事故もなく平成27年(2015年)に終了しました。昭和47年の開園後、動物舎の周りや園路沿いに植えられた樹木や自然木も大きく成長し、園全体が樹木に覆われ、植物と動物が一体となった自然豊かな動物公園でしたが、残念ながらリニューアル工事のため多くの樹木が伐採され、また、新たに植えられた樹木も幼木のため、成長するには相当の時間が必要だと思えます。樹木は動物園に欠かせないため、今後の成長を見守っていきたいと思えます。

さて、工事が終了し、動物舎等の展示については各飼育担当者に引き継がれました。これからが腕の見せ所です。平成26年(2014年)にはピントロング展示場の展示が、市民ZOOネットワークによる「エンリッチメント大賞2013」の一次審査を通過しました。これは、動物本来の能力・行動を引き出し、動物が豊かな生活をおくることができるよう取組みを表彰しているものです。ピントロングについては、飼育環境の様々な工夫に対して評価されました。ピントロングの例を手本とし、それぞれの飼育担当者には動物の福祉や来園者への見せ方等工夫しながら、動物舎全体を自分なりに作り上げてほしいと思えます。



平成26年(2014年)
3月20日 ボルネオオランウータンのオス(ホビー)が東京都多摩動物公園より来園
6月23日 ホワイトタイガーのオス(ガク)を和歌山県のアドベンチャーワールドへ、メス(ココキ)を姫路セントラルパークへプリーディングローンによりそれぞれ搬入
10月2日 29年振りにコアラ3頭がオーストラリアから来園
11月22日 コアラ(ココロ)が出生。コロコ(オス)と命名
11月 世界のツルゾーン、南米館リニューアルオープン



平成27年(2015年)
1月2日 10月に来園したコアラ(ブランディ)が出産。ユメ(メス)と命名
4月 世界のサルゾーン(チンパンジー舎)とオーストラリアの自然ゾーンがリニューアルオープン
5月27日 ヤブイヌのオス2頭(ウキョウ、サキウ)が京都市動物園よりプリーディングローンで来園
11月2日 ホワイトタイガーの子どもが5頭が誕生(うち3頭は死亡)。キコ、カリと命名



平成28年(2016年)
2月5日 徳之島で保護されたアマミノクロウサギのメス(ボマ)を収容
2月17日 ホワイトタイガーのメス(キコ、カリ)をオーストラリア・ドリームワールドへ搬入
4月 ふれあいランドがリニューアルオープン、どうぶつ学習館がオープン。再整備工事が完了し、全面リニューアルオープン
5月9日 園内移動バスのプレ運行が開始
6月7日 リニューアル事業完成記念式典開催。園内移動バスの運行が開始
6月20日 カリフォルニアアシカが15年振りに繁殖。リコ(メス)と命名
9月8日 マサイキリンが7年ぶりに繁殖。ハヤテ(オス)と命名
10月1日 平川動物公園ボランティア21名が活動開始
12月17日 奄美大島で保護されたアマミノクロウサギのオス(ネセブ)を収容



平成29年(2017年)
2月16日 クロヒョウのメス(スー)を浜松市動物園より搬入。父親はプリーディングローンで同園へ貸出中のシム(オス)
2月17日 保護療養中だったアマミノクロウサギのメス(ボマ)が死亡
2月19日 開園以来の入園者数2,500万人を突破
3月 アマミノクロウサギのメス(ボマ)が日本動物大賞「動物愛護賞」を受賞
4月1日 平川動物公園開園45周年特別企画「動物総選挙」投票開始
4月8日 チンパンジーのイチエが出産。鴨池動物園、平川動物公園を通じて初めて
4月22日 奄美大島で保護されたアマミノクロウサギのオス(ケンタ)を収容
4月23日 保護療養中だったアマミノクロウサギのオス(ネセブ)を野生復帰に向けて奄美大島へ搬入。同月28日に無事放野
5月13日 「動物総選挙」結果発表。肉食動物部門1位:ホワイトタイガー(713票) 草食動物部門1位:コアラ(465票) 雑食動物部門1位:レッサーパンダ(859票)
7月2日 4月8日に生まれたチンパンジーの子ども(オス)、「イチロー」と命名



の考え方を直し、明確な目的をもって飼育する動物を選択し導入する方向へ少しずつ変わってきています。平川動物公園でも、平成28年(2016年)に園独自のコレクションプランを作成し、各種の動物について今後の収集を検討する体制を整えました。今後、議論を深め、更に充実した動物飼育を進めていきたいと思えます。

今回は園長・石堂が担当しました。4回にわたりお伝えしてきた「シリーズ かごしまの動物園 100年の歴史を振り返る」はいかがでしたか？先輩方が残された功績を受け継ぎ歴史を伝え続けると共に、これからも皆様に愛される平川動物公園であるよう新たな挑戦をしていきます。

アミノクロウサギの「ボマ」が日本動物大賞動物愛護賞を受賞しました

平成27年12月に徳之島町の農道で交通事故により負傷し保護された「ボマ」は、平成28年2月より平川動物公園にて治療を継続していました。残念ながら平成29年2月に死亡してしまいましたが、保護から治療、収容と多くの関係機関が関わり動物愛護の功績が評価され、公益財団法人日本動物愛護協会が主催する第9回日本動物大賞の動物愛護賞を受賞いたしました。ボマをはじめ、当園及び奄美群島の自然保護に



▲素晴らしい楯と表彰状をいただきました



▲受賞したアミノクロウサギのボマ

関わる組織や人々が評価をいただいたということで、大変喜ばしく、また光栄に思っております。この受賞を励みに、今後も引き続き地域の生き物の保護や調査研究、関係機関との連携に注力していき、そして生き物の大切さ、素晴らしさを多くの方々知っていただくようより一層努めていきたいと考えています。

【受賞理由(審査委員会より)】

平成27年12月、鹿児島県徳之島町の農道で出血した状態で保護された。地元の病院で緊急措置をし、翌日には奄美大島、現在は鹿児島市平川動物公園で、当初700グラムだった体重が2100グラムまで成長。現在も交通事故の後遺症のため、バックヤードで飼育されているが、メディアによる取材が多かった事から、希少種への外来種による被害や交通事故被害など、かけがえの無い地域の自然環境について考える自然保護活動に繋がっている。

【日本動物大賞とは】

公益財団法人日本動物愛護協会が創立60周年を迎えたその特別記念事業の一環として創設されました。この事業は、日本動物愛護協会が長年にわたって実施してきた動物愛護功労者及び功労働物の顕彰制度をより広く全国レベルに拡大するとともに、「動物愛護管理法」の普及啓発を図り、動物愛護活動を国民運動にまで発展させる契機にしようとするものです。

アミノクロウサギの野生復帰と傷病保護がありました。

平成28年11月に奄美大島奄美市の県道で、交通事故により負傷し保護されたアミノクロウサギ「ネセブ」は、平成28年12月より当園にて治療を継続していました。治療の経過も良好で体調が回復し野生復帰に支障がないと判断したことから、奄美大島へ移送し、平成29年4月に野生復帰させることができました。

アミノクロウサギを取り巻く問題の提議や飼育下での貴重な記録の収集に大変貢献してくれた個体です。



▲放野されたネセブ。たくましく生きて！

また同じく4月に奄美大島でネコと思われる動物により受けた咬傷により、オスのケンタを現在収容し治療にあたっています。経過は順調ですが非公開にて飼育を継続しています。



▲頭部に咬傷を負ったケンタ

今後も奄美群島を含む生物の傷病保護、飼育下での記録の収集に努め野生生物の保護活動に役立てていきたいと思ひます。

※写真提供:ゆいの島どうぶつ病院 伊藤圭子氏

※これまでの取り組みは、「アミノクロウサギのひみつ」としてどうぶつ学習館で紹介しています。

あかちゃん紹介

むぜもんじや

むぜもんじや:鹿児島弁でかわいいねの意味

エミュー(名前 バド)

2017年3月4日生まれ

こんな動物

ダチョウ目ヒクイドリ科
分布:オーストラリア
主食:草、果実、昆虫等(雑食)



▲親と違う？

成鳥は体高が2m近くあり体は黒いですが、生まれた時は20cm程で体も縞模様です。縞模様は親の体の下だと目立ちません。ふ化してからも父親が育児をし、エサの食べ方を教えたりします。

卵は鳥類の中で2番目に大きく(1番はダチョウ)、緑色をしています。二ワトリの卵が60g程なのに対しエミューは600g程と10倍もあります。抱卵してから60日程でふ化します。父親が抱卵します。



▲大きい！卵(左:二ワトリの卵)

いっぱいエサを食べどんどん大きくなり、走るのも速くなりました！まだまだ体が小さいので親のそばを離れようとしません。頑張ってついていく様子を見守ってあげてください！



▲すくすく成長中

コクチョウメス(名前 ミサオ)

2016年12月6日生まれ

こんな動物

カモ目カモ科
分布:オーストラリア
主食:水草など(草食)



▲子育ては飼育員が行いました

今回は親が抱卵をしなくなったため飼育員が親代わりで育てています。プールで泳ぎの練習をし、運動不足解消のために散歩をさせるなどの世話をしました。

ヒナのころは灰色でクチバシが真っ黒です。羽はとてもフワフワしていて触り心地がとてもいいです。小さくても水の上でしっかりと泳げます。



▲黒くない！？

成長していくにつれてフワフワの羽から、真っ黒な羽に生え変わりました。水をよく弾き水の上に浮かびやすそうです。クチバシもだんだんと赤くなってきています。もう少し大きくなってからの展示となります。それまでもうしばらくお待ちください。



▲黒くなってきた！